国際交流基金バンコクインターンシッププログラム　活動報告　　日本語教育Ⅱレポート
（スィーパトゥム大学　2012 年 8 月 14 日～9 月 14 日）
文学部フランス語圏文化学科 3 年　吉野恵理

１．派遣先概要

（ネットより一部引用、編集 http://spujapanese.jimdo.com/sripatum-university/）

スィーパトゥム大学（Sripatum University；SPU）は、タイ王国における最も伝統的にして、格式・ 由緒ある私立大学の一つであります。1970 年 5 月 28 日、「タイ・スリヤー・カレッジ（Thai Suriya College）」という名称を以って、スック・プカヤポーン博士（Dr. Sook Pookayaporn）によって設立された「Sripatum College（スィーパトゥム単科大学）」を前身とする大学であります。在籍学生総数は、約 25,000 名で、学部課程・約 24,000 名、大学院課程（修士・博士）約 1,000 名の規模にあります。スィーパトゥム大学のバンコク・キャンパスであるバーンケン本校（ほか２つのキャンパスがある）には、2011 年 6 月現在、学部課程において、11 学部（報道放送学部・法学部・商学部・経営学部・教養学部・経済学部・情報工学部・建築学部・工学部・国際学部・デジタルメディア）・41 学科の教育カリキュラム・プログラムが開講されています。大学院課程では、修士課程・15 専攻科及び博士課程・６研究科が開設されています。

２．スィーパトゥム大学での日本語教育

スィーパトゥム大学は日本語の主専攻はなく、教養学部（観光学科、ホテル・ビジネス科、エアライン学科。教養というよりはむしろ実用的な学科の名前だと思いました。）の選択必修として日本語が採用されていました。また、基礎科目として他の学部の学生もクラスを取っているようでした。オフィスは、国際文化研究所（ＳＩＩＬＣ：Sripatum International Institute of Language and Cultures）で日本語教師のほかに、英語、中国語、フランス語の教師が在籍していました。日本語担当の教師は日本人 2 名（男性 1 名、女性 1 名）タイ人 1 名（男性）がいらっしゃいました。

日本語クラスは初級レベルのクラスを３つに分けた「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語Ⅲ」があり、これらをすべて取ると初級日本語を終えたことになります。教科書は「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」に準拠したＳＰＵオリジナルの教科書を使っており、抜粋ではありますが、「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」が終了できるカリキュラムになっています。それ以外に「ビジネス日本語」や単位にはならず有志のみで行われる「特別クラス」がありました。「日本語Ⅰ～Ⅲ」はそれぞれ週 2 コマ（1 コマ 2 時間）ですが、同じ曜日に続けて 2 コマ授業が入っ

ていました（１限…日本語Ⅰ①、2 限…日本語Ⅰ②）

２．渡航までの準備

＜予算計画書＞

予算書がやりやすいということもあり、同じプログラムに参加した高木さん（Ｍ１）と一緒に準備したものが多いです。二人以上で行く場合は予算書に関係するもの（航空券、保険など）はふたり一緒のものの方が予算計画書が書きやすいです。航空券と保険はＪＴＢを通して手配しました。ＪＴＢの発行手数料は少し高いらしく、全額は予算がおりないかも、という話があったのでＪＴＢは控えた方がよいのかもしれません。

＜ビザ＞30 日以内なら必要はありませんが、私の場合、少し日数が超えたので取得する必要がありました。意外にビザはすんなり取得できます。書類を提出した次の日にはビザを受け取ることができました。区分は観光ビザ（学生ビザは渡航先の大学の単位を取るとき）で職業訓練であること、単位の取得はないこと、を書類に書いておくといいと思います。

＜言語＞バンコク都内にもかかわらず、英語が通じない時が多々ありました。初日は特に、指さし会話帳が役に立ちます。タイ語については、日本ではまったく勉強していきませんでしたが、少しだけでも勉強した方が良いです。

＜住居＞

私たちはサービスアパートメントを借りて１か月生活しました。大学へはバスで２０分程度、地下鉄の最寄駅までは大学と逆方向に 20 分程度、大通りを面して映画館（MAJOR Cineplex）を中心にしたショッピングモールがありとても立地のよいところでした。部屋はダブルベッド、バス・トイレ、Wifi 付のワンルームです。サービスアパーメント（SENAHOUSE　http://japanese.hotelthailand.com/bangkok/sena-house-rangsit/）は毎日、ベッドメイキング、バスタオル・フェイスタオルの交換、一部屋に 2 本ミネラルウォーターがついており、とても快適に過ごすことができました。手配はスィーパトゥム大学の高橋先生にして頂きました。予算書は渡航前にメールで受け取りました。

＜お土産＞

学校へのお土産（日本語専任の先生、研究所全体、学部長、学長、箱入りの日本のお菓子を連名にしました）学生へのお土産（小分けにされているお菓子、おせんべい、ミルキー

など）を用意しました。学生へのお土産は他のＴＡにも喜ばれます。学習院大学日本語学科のファイルは誰に対しても喜ばれます。

＜あった方が良いもの＞

話のネタにできるので日本（東京や自分の出身地）のガイドブック、日本文化を紹介する本（イラスト、英訳があるものだと便利です）があると良いと思います。大学紹介用に大学案内も用意してください。日本語を学習している学生の多くがポップカルチャー、サブカルチャーに興味があるので、それについての本やグッズを持っていくといいと思います。（アニメやゲーム、アイドル（AKB48、嵐…）など。）もちろん、伝統的なもの（ゆかた、和楽器、茶道、日本舞踊、書道…）も発表の機会があるので役立ちます。

パソコンは学校の Wifi はパスワードをもらわなかったのでインターネットは使用していません。アパートでは無料で使えますし、パワーポイントを作るときがあったので、あると便利だと思います。

＜服装＞

女性はスカート、男性はスーツが基本の服装になります。オフィスでの女性は基本的にズボンをはきません。ＴＡは普通のスーツを一式持っていけば問題ありません。授業をやっている部屋は常に 18～22 度くらいでエアコンがきついです。ちなみに 8～9 月は雨季にあたり、日本の梅雨と同じくらいの温度、湿度で日本の 8～9 月より過ごしやすく感じました。

３．出発から現地までの交通手段

北総線で成田空港まで行き、飛行機（ANA 直行便 6 時間程度）でバンコク、スワンナブーム空港まで行きました。その後、サービスアパートまではＡＲＬ（Airport Rail Link 空港連絡鉄道）とＭＲＴ（地下鉄）、最寄駅からタクシーを使いました。帰りは一人であったためと、早朝だったため、サービスアパートから空港までタクシーを利用しました。

４．教育実習内容

教壇実習のほかに様々な交流会やイベントに連れて行っていただきました。

＜教壇実習＞

週一回、一つの授業 2 時間のうち 30 分をＴＡが頂き、教壇実習をさせていただきました。授業の前半で先生が文法解説や練習をタイ語でやっていただいた後にＴＡが会話練習を直説法で行います。語彙の確認（文字カード）はタイ語を使用しました。

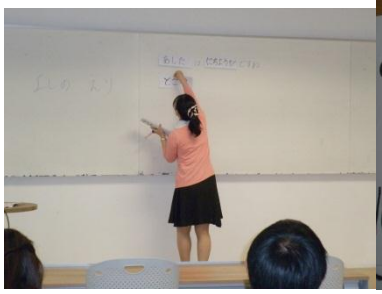
クラスは「日本語Ⅲ」で担当した課は「みんなの日本語Ⅱ」の 34～37 課です。学生の人数は 30～35 人前後の大人数です。（ちなみに、日本語Ⅰは 60 人ほどのクラスでした）

教壇に立つまでは、多くの準備をしなくてはならず、教案の作成（私ははじめて教案を書きました）担当教員の添削、絵カード・文字カードの作成、板書計画、キューだしの練習などを経て実際の授業に臨みます。授業後には担当教員からのフィードバックがあります。

国際交流基金バンコクインターンシッププログラム　活動報告　　日本語教育Ⅱレポート
（スィーパトゥム大学　2012 年 8 月 14 日～9 月 14 日）
文学部フランス語圏文化学科 3 年　吉野恵理

授業は学生との対話が重要であり、一方的な授業になってはいけない、この課では何を学習させたいか、そのためにはどんなシチュエーションを提示すれば良いのか、文法の基本的な理解、ひとつひとつの活動（音読、リピートなど）にも明確な目的がある、など授業の作り方、ポイントが見えてくるようになりました。ひとつの授業はすみずみまで考えられて出来ている、ということを実感しました。実際に教壇に立ってみなければ、日本語教師の大変さと面白さを同時に感じることができなかったと思います。

現地の学生に教える機会を頂けたことはとても幸運なことだと思います。専任の先生の添削やフィードバックなど、ていねいなご指導は今後の授業に役立つでしょう。必ず、貴重な経験になると思います。



＜教室外活動＞
学生の空きコマにはわたしたちが使用している部屋へ遊びに来てくれて、いろいろな話をしました。基本的には「日本語Ⅲ」を履修している学生ですが、私たちの部屋を見て興味を持ってくれた学生とも交流することができました（ＴＡが使用している部屋は半分ガラス張り）学生はとても親切でフレンドリーな印象を受けました。

＜日本語パーティ＞
日本語パーティを 2 回行いました。おにぎり作り、日本のダンス（盆踊り、ＡＫＢ）、日本のうた、学生の名前を漢字で書く、おみくじ、などをいつも使用している部屋で出し物をやりました。日本語Ｉの学生などあまり日本語を知らない学生とも交流ができることがと

ても楽しかったです。

＜タイ国日本語教育研究会月例会＞
バンコクの日本語教師が月に一度集まって行われるセミナーに参加させていただきました。いろいろな先生がいらっしゃっていて、様々な体験談をうかがうことができました。講演の内容は「日本語で作りやすい詩歌、五行歌」というものでした。
＜J-education Fair＞
日本留学フェアに連れて行っていただきました。語学学校や大学の説明会だけではなく、日本語学科や日本語クラブがあるバンコクのいくつかの大学が日本に関するブースを出していて、日本の高校の文化祭のようににぎやかな留学フェアでした。（対象は高校生なので大学の宣伝も兼ねているようです）スィーパトゥム大学のブースはおにぎり屋さんとデジタルメディア科の似顔絵かきで、その一日でデジタルメディア科の学生と仲良くなれました。他の大学の方とも交流ができ、また、タイの大学生は日本のどんなところに興味があるのか、を知ることができました。（プリクラ、駄菓子屋さん、夏祭り、忍者、オタク、日本の正月、回転ずし、お弁当 etc）

国際交流基金バンコクインターンシッププログラム　活動報告　　日本語教育Ⅱレポート
（スィーパトゥム大学　2012 年 8 月 14 日～9 月 14 日）
文学部フランス語圏文化学科 3 年　吉野恵理

＜チャンカセム・ラチャパット大学訪問＞

スィーパトゥム大学とは違い、ビジネス日本語コースという専門コースのある国立大学です。ビジネス日本語コースの１年生、4 年生と交流会を行いました。内容はタイ人と日本人が自分の文化について発表し、理解を深めよう、というものです。日本人ＴＡは「日本の大学の１年」「広島弁で大学生の一日」という日本人大学生の日常をＰＰＴで発表をし、タイの学生はボアローイというお菓子を実際に作ってくれ、タイダンス、タイの笛の演奏をしてくれました。

　タイ人は自分の国の文化をよく勉強してきている、と感じます。そして、自分の文化を紹介する力をどの学生も持っているな、と思いました。仏教についての理解もタイダンスもそのひとつです。日本では、自分の文化を紹介するという教育はあまりやってきておらず、うらやましく思うとともに、その力はこれからの社会では必要だと感じました。

国際交流基金バンコクインターンシッププログラム　活動報告　　日本語教育Ⅱレポート
（スィーパトゥム大学　2012 年 8 月 14 日～9 月 14 日）
文学部フランス語圏文化学科 3 年　吉野恵理

＜サトリーノンタブリー女子中等学校訪問＞

タイの中等学校は中学１年～高校３年までの学生がひとつの学校に通う、日本でいう中高一貫校が基本です。日本と大きく異なる点は、中等教育から外国語を選択できることです。この学校では、他に英語、フランス語、ドイツ語、中国語が選択できます。そのなかで日本語を選択した高校１年生のクラスと中学1～3年生の日本語クラブへ訪問させていただきました。高校１年生のクラスでは伝言ゲーム、中学生のクラスでは折り紙をしました。高校一年生の人数は５０人ほどでにぎやかで楽しい時間を過ごすことができました。日本の高校生やタイの大学生と比べて素直で元気な学生ばかりで、こんなに歓迎されるとは思いませんでした。高校生たちは日本人がくる、ということがとても楽しみだったようでした。今回の訪問で彼女たちが日本人ともっと話したい、勉強したい、と思ってくれたらうれしく思います。また、高等教育での日本語教師についてサトリーノンタブリーの橋先生からお話を伺うことができました。

６．最後に

短い期間ではありますが、海外での日本語教育の一端に触れ、多くのことを知り、考えることができた１か月間でした。

このような機会を頂けて本当に感謝しています。ありがとうございました。